

第 32 回日本レジャー・レクリエーション学会大会シンポジウム
～障害者スポーツからのメッセージ～

コーディネーター 大分大学 古城建一

● シンポジウムのねらい

今学会大会のシンポジウムでは「障害者スポーツからのメッセージ」というテーマを掲げました。このテーマでコーディネーターが意図したのは、不遜な言い方になって恐縮ですが、「心のバリアフリー」のあり方をみんなで考えよう、ということです。

バリアフリーという言葉は、一般的には障害をもつ人々や高齢者の生活や活動に不便な障害を取り除くことと考えられています。具体的には階段の代わりにスロープを取り付ける等のことと考えられています。こうした生活環境の改善についての社会的努力が重要なことは言うまでもありませんが、このような努力とともに、「心のバリアフリー」を人々の意識のなかに根付かせる努力がより重要であると思います。ノーマライゼーションとは、いうところの健常者と障害者の間に差別も隔たりもないという思想の表明ですが、生活環境が整備されても、人の心のなかに障害者と健常者をめぐるバリアが存在していたのでは何もならないと思うからです。また、環境整備が人々の意識における生活領域の差別化の形成要因になる可能性は否定できず、それによって差別意識が生じかねないと思うからです。

シンポジウムに先立って、まず吉永氏から「太陽の家」の創立から今日に至る歩みを講演していただきます。氏のお話から、私たちは必ずや障害者スポーツの理念とそれを実現するための知恵を示唆されると思います。

基調講演に続いて3氏の実践と研究の報告をしていただきます。

堀川氏からは、「太陽の家」における身体に障害をもつ人々のスポーツについてのより具体的な報告とともに、施設から地域への広がりを目指した実践の具体例などを中心に報告していただきます。スポーツにおけるノーマライゼーションのあり方を示唆していただけたらと思います。

綿氏からは、障害者スポーツはなぜ生涯スポーツへ発展しないのかという問題意識のもとで、その発展の阻害要因を分析した結果と、その結果をもとに、スポーツ統合という新しい概念装置を用いた障害者と健常者の協同的実践の可能性などについて報告していただきます。

麻生氏からは、知的障害者と大分大学学生とが協同して行うダンスの練習について、この取り組みがはじまった経緯と練習の具体的な内容、さらに練習をとおして障害者と学生にどのような変容がみられたかなどを中心に報告をしていただきます。

「心のバリアフリー」を口にするのは容易いが、その実現には多くの困難があります。3氏の報告は、この難問の打開へ向けて、私たちが何をどうしなければならないのかについての示唆を与えてくるものと思います。さらに欲を言えば、「心のバリアフリー」は、実は健常者と障害者の間だけの問題ではなく、健常者といわれる人々の間にも、たとえばスポーツの「うまい」「へた」や体つきの差別等などによって日常的に生み出され続けている問題でもあります。ですから、この問題は地域に生活する人と人との根本的なあり方の問い直しでもあると思います。今回のシンポジウムが、こうした問題についても考える機会になればと内心期待しています。

● 基調講演者およびシンポジストのプロフィール

基調講演 吉永栄治氏

1940年長崎県に誕生。1965年福岡大学を卒業後28歳で社会福祉法人太陽の家(以下太陽の家)に入所しました。1970年から1989年まで九州車椅子バスケットボール連盟会長。1971年太陽の家事務局職員となり、1998年から今日まで同事務局長を歴任しています。その間、1975年には別府市議会議員に初当選し以後3期努めました。2002年には黄綬褒章を受章しています。同年の世界車椅子バスケットボール選手権大会(北九州)では実行委員長を務めました。以上の経歴が示すように、氏は太陽の家はもとより障害者スポーツについての生き字引的存在であるとともに、障害者の立場から行政に参画し多大な功績をあげた方です。

シンポジスト 堀川裕二氏

1957年岡山県に誕生。1984年弘前大学教育学部を卒業と同時に太陽の家に入社(事務局機能訓練課)。1995年訓練課長に就任し現在に至っています。現在は太陽の家で身体障害者の機能訓練に励む一方、日本車椅子研究会事務局、九州車椅子バスケットボール連盟事務局長、大分県障害者スポーツ指導者協議会会長、別府市身体障害者福祉団体協議会副会長、太陽の家むぎの会会長、日出町サンズ車椅子バスケットボールクラブコーチ、等などの要職に就いて活躍しております。障害者スポーツの企画・指導の実践家として大分県を代表する方です。

シンポジスト 綿 裕二氏

1964年愛知県に誕生。1987年鹿屋体育大学卒業と同時に同大学院社会体育学コースへ進学。同院修了後は、東京都立大学(1991年着任)を経て、現在は長崎国際大学に助教授として勤務しています。1994年には社会事業大学社会福祉学部福祉援助学科地域福祉コース非常勤(兼任)として専門演習、レクリエーションワークなどを担当。2001年にはNPO法人障害児者福祉なんでも相談室「コットンプランツ」理事長を務めています。現在は日本ソーシャルワーカー協会広報委員会委員、第17回アジア太平洋社会福祉教育・専門職会議現地実行委員会事務局長、障害者スポーツ指導員講師などの役職に就いております。

シンポジスト 麻生和江氏

1955年大分県に誕生。1978年広島大学を卒業と同時に東京学芸大学大学院修士課程に進学。大学院では主として体育原理および創作ダンスを研究しました。1983年大分大学教育学部(現教育福祉科学部)着任し、2001年には教授に昇任しました。この間、主として創作ダンスの実践と理論研究を行ってきました。1988年から、社会福祉法人シンフォニー(知的障害者のための施設)利用者と大分大学学生との合同ダンス練習会を主宰し現在に至っています。練習会の成果は、年1回行われる大分大学内の発表会および大分市が主催する「福祉のつどい」において一般に公開しています。